

大津村支部の確立となり青年部の組合同等への参加も幾々實現的となつた。定時の開會はもり上つて一九三一年のメーデー開會は青年部を先頭に今次かつて見ざる勇躍をもつて開かれた。七月十六日第一回の支部代表者會議が開かれ、（この日は午後三時、全室に於て）開會は豫定した尙九月六日に創立大會を開催すること。總本館幹事、青年部本部支持を決議した。第一回支部代表者會議後本部支持共に大會の準備に着手したのであるが七月二十日新編本館事務所の問題を機に幹部に幹部が下る委員長外本部員全部青年部の責任者北口書記長等が放逐決議を以て、青年部の支部からも二名の被逐者と四十餘名の起訴被逐者を出した。青年部は幹部によつて新幹部を失つたが後継支部の再建のため開會に組合の全勢力がそゝがれてゐたのと大津實その他の幹部によつて青年部に對する親父組合の組織がなされた。結局九月六日の創立大會は延期となつた。だが新幹部を失ひながらも九月の開催には

山門部の青年部は組織を反開會と被逐つて再び大津村支部では秋の放逐開會等と起つたために自主的に活動した。十二月廿日の開催第四大會に於て青年部確立促進の件が提議され大會直後二十八日第二回支部代表者會議の開催となり放逐された新幹部は再び確立された。新に陣營を立て直した青年部は二月本館幹事本全開大會の準備活動として大會迄の期間を本支部地区の確立大會開催代議員の地区に依る地区大會並の準備をなすことと開催期創立大會四月十日開催する事決議した此の決議は特に山門部並本館開會の各支部に於て最もよく受けられた。山門部に於ては山門部青年部組織を準備して青年部地区委員會を確立し各青年部員は各支部に組織會を作る事、青年部、青年に情を置くも併せての事に同等委員會を組織することとした。大津村支部に於ては同等青年部組合二百數十名を委員に獲得し尙大會並金を準備青年親父組合員、少年等數十名から募集した。山門地方に於ては地区